

平成29年度 札幌南三条病院 病院指標

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~
患者数	-	13	26	26	106	279	1007	941	251	11

10未満の患者数は、(ハイファン)を使用しています。
 2歳以上の患者数は、10歳未満の患者数に比べて比較的小さい手術のため、術後の痛みや大きさ、体への負担が少なく回復も早く、入院期間が短くなります。当院では全国平均より平均在院日数が5.24日短くなっており、2歳目と3歳目の患者数は、11歳以上の患者数に比べて比較的小さい手術や、輸血を行う症例になります。こちらも胸腔鏡手術を使用することが多く、全国平均より平均在院日数が3.39日短くなっており、3歳目と4歳目の患者数は、気胸という胸膜に穴が開いて呼吸が難しくなる病気の症例です。
 また、若年層の多くは気胸の患者さんで、手術や保存的加療(手術をせず、ドレーンを入れたり自然治癒するのを待つ治療)などを行っています。

診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

■呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040X97X10X	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2(中心静脈 注射・人工呼吸)あり 副 傷病なし	214	16.10	21.34	0.93%	67.93	
040040X97X00X	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2(中心静脈 注射・人工呼吸)なし	77	8.96	12.35	1.30%	69.18	
040200X01X00X	気胸 肺切除術または肺 縫縮術あり 手術・処置等 2(人工呼吸)なし 副傷病 なし	64	10.19	10.04	3.13%	37.05	
040200X99X00X	気胸 手術無し 手術・処 置等2(人工呼吸)なし 副 傷病なし	30	13.93	9.14	13.33%	58.70	
040020X97X00X	縦隔の良性腫瘍 手術あり	12	9.00	8.94	0.00%	53.58	

当院では、胸に開けた小さな穴に胸腔鏡を用いて、病気の部分を切除したり縫合したりする胸腔鏡手術を積極的に導入しております。
 呼吸器外科で最も多いのは、肺癌の手術症例です。これは従来の開胸手術に比べて比較的小さい手術で行える手術のため、術後の痛みや大きさ、体への負担が少なく回復も早く、入院期間が短くなります。当院では全国平均より平均在院日数が5.24日短くなっており、2歳目と3歳目の患者数は、11歳以上の患者数に比べて比較的小さい手術や、輸血を行う症例になります。こちらも胸腔鏡手術を使用することが多く、全国平均より平均在院日数が3.39日短くなっており、3歳目と4歳目の患者数は、気胸という胸膜に穴が開いて呼吸が難しくなる病気の症例です。
 3歳目と4歳目の患者数は、気胸という胸膜に穴が開いて呼吸が難しくなる病気の症例です。
 3歳目の症例は手術を行った症例、4歳目の症例は保存的加療(手術をせず、ドレーンを入れたり自然治癒するのを待つ治療)を行った症例です。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040X99090X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・ 処置等2あり (オプジー ボ、キートルーダ)	586	9.36	10.56	0.51%	68.10	
040040X99040X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・ 処置等2あり (化学療法 あり/放射線治療なし) 副傷病なし	564	8.76	11.99	1.60%	67.86	
040040X99100X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1(気管支鏡 検査など)あり 手術・処 置等なし	333	2.29	3.59	1.20%	70.73	
040040X99050X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・ 処置等2あり (カルボプラ チン/パクリタキセル、イ レッサ、タルセバ、ジフトリ フ)	150	11.99	18.99	1.33%	68.70	
040040X99000X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし	89	12.90	14.60	19.10%	68.47	

呼吸器内科の多い症例は、肺癌の化学療法です。
 使用する薬剤によって在院日数は変わりますが、当院の在院日数は全国平均よりも短い傾向にあります。
 最も多い症例は、オプジーボ、キートルーダという免疫チェックポイント阻害剤を使用した肺癌の治療となり、平均在院日数は9.36日となります。
 2歳目と3歳目の患者数は、肺癌以外の癌種に対する化学療法になります。平均在院日数は、8.76日で全国平均と比べ3.23日短くなっています。
 3歳目の気管支鏡検査は、癌かどうかを判別したり、がんの組織を調べたりするときに行います。当院では1泊2日の入院で行うことが多く、4歳目と5歳目の患者数は、肺癌以外の癌種に対する化学療法になります。平均在院日数は、11.99日で全国平均と比べ5位の中で最も差が大きく、7.00日短くなっています。
 5歳目と6歳目の患者数は、肺癌以外の癌種に対する化学療法になります。平均在院日数は、12.90日で全国平均と比べ5位の中で最も差が大きく、7.00日短くなっています。
 経過観察や、当院での治療を予定したものの他施設での治療に変更となった、緩和を選択した症例が多く含まれます。
 そのため、転院率が19.10%と高くなっています。

初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数

	初発					再発	病期分類 基準(※)	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	-	-	-	-	-	-	-	-
大腸癌	-	-	-	-	-	-	-	-
肺癌	341	102	389	671	278	434	1	7
肝癌	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 1:UICC TNM分類、2:症取扱い規約
 この患者数は延べ数として算出されています。
 当院ではIV期、III期、II期、I期の間に患者数が多くなっています。
 不明に分類される延世患者数278名は実患者数に252名になり、診断時の「疑い」の患者さんや、癌の広がりを探る前の患者さんを含みます。252名の不明だった患者さんはその後、91名がStage I、11名がStage II、26名がStage III、29名がStage IVと診断し、それぞれの病期、体の状態に合わせた手術・化学療法などの治療を選択して行っています。
 それ以外の患者さんの24名は他の医療機関へ紹介いたしました。
 そして残りの71名は、肺癌以外の別の病気があったり、他の病気の治療のため来院が中断された患者様などです。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均 在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	24	16.92	74.96
重症	-	-	-
超重症	-	-	-
不明	-	-	-

10例未満の症例は、(ハイファン)を使用しています。

脳梗塞の患者数等

発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
3日以内	-	-	-	-
その他	-	-	-	-

10例未満の症例は、(ハイファン)を使用しています。

診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

■呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除または1肺葉を 超えるもの)	165	2.52	11.18	0.00%	67.41	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (部分切除)	76	2.41	6.42	1.32%	69.08	
K5131	胸腔鏡下肺切除術(肺葉 肺手術/根状部分切除し よるもの)	70	4.81	4.84	4.29%	39.83	
K5143	肺悪性腫瘍手術(肺葉切 除又は1肺葉を超えるも の)	16	3.38	16.13	6.25%	72.31	
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (区域切除)	14	3.21	12.00	0.00%	70.29	

1歳目、2歳目、5歳目は肺癌に対して行われる胸腔鏡下手術で、1歳目が肺葉切除、2歳目が部分切除、5歳目が区域切除です。4歳目は肺癌に対して行われる手術ですが、こちらは開胸手術となり、肺葉の切除術です。
 これらの手術はがんの進行度や患者様の状態によって決定しております。
 3歳目は主に気胸に対して行われる胸腔鏡下手術で、平均年齢は他の手術症例と比較すると若い傾向にあります。

■呼吸器内科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
------	----	-----	------------	------------	-----	------	-------

K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は静脈内持続注入用輸込器カテーテル設置(頭頸部その他に設置した場合)	32	3.03	9.69	3.13%	69.28	
K0011	皮膚切開術(直径10cm未満)	-	-	-	-	-	-
K539-3	胸腔鏡下心膜開窓術	-	-	-	-	-	-
K386	気管切開術	-	-	-	-	-	-
K6182	中心静脈注射用挿入型カテーテル設置(頭頸部その他に設置した場合)	-	-	-	-	-	-

10症例未満の症例は-(ハイフン)を使用しています。

手術は呼吸器外科の医師が行います。

通常呼吸器内科では手術は行いませんが、退院時の診療科で集計する集計方法となっているため、呼吸器内科でも手術別患者数の集計となります。抗がん剤の持続投与が必要な場合などに、血管内に薬剤を注入するための機器を皮膚の下に埋め込む手術を行っています。この手術を行うと、末梢血管のルート確保が困難な場合、何度も針を刺して苦痛が伴うことを避けることができます。

手術後、すぐに化学療法を行っているため、平均術後日数が9.69日と長くなっております。

その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	-	-
		異なる	-	-
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	-	-
		異なる	-	-

10症例未満の症例は-(ハイフン)を使用しています。